

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

2013-2014年度 国際ロータリー会長 ロンD. パートン



2013-2014年度 会長 鷲塚貞長 幹事 服部 滋 クラブ会報委員長 佐藤公俊

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551

TEL 052-523-1998 FAX 052-531-0727

2013 August 7

■ 2013~2014年度方針

“原点に戻り 品格あるアドバンス”
Return to basics Advance with intelligence

NO.6

例会報告

●第2002回例会 平成25年8月7日(水) 晴

●8月は会員増強及び拡大月間

●君が代

●ロータリーソング 奉仕の理想

●出席報告 会員 103 名中 出席64名
(96)

出席率66.67% 修正出席率86.17%
(7月24日分)

●ゲスト紹介

・ゲストスピーカー

近畿大学 生物理工学部 鈴木高広教授

・米山奨学生 デバコタ・ジバナト君

・青少年交換学生 松尾玲音君

・松尾勝哉氏

・松島孝彰氏

・久保和彦君、夏目英司君ゲスト 藤江博子さん

●ニコボックス

「孫がお世話になります。福田さんありがとうございます。」
千種RC OB 松島孝彰氏

「イモ博士 鈴木高広先生の講演をご静聴よろしく
お願いします。」

環境保全委員会 本多國泰委員長
中野義識副委員長

「今年度、名古屋和合RCがスポンサーとなり青少年
交換学生として松尾玲音君が一年間フランスに
留学します。しっかりと勉強させていただきますので、
皆様よろしくお願いします。」 福田哲三君
「富士登山をしました。ヘロヘロです。」

上野山 進君

「一週遅れですが記念例会での10年表彰大変あり
がとうございました。私にとっても節目の一年に
なりそうです。」 野崎敏夫君

「11月2日から4日までの『ワールド・フードふ
れ愛フェスタ』についてのお知らせを皆さんのボッ
クスにお配りしました。そのまま捨てないで、是
非ご覧下さい。ご協力よろしくお願いします。」

福田哲三君

「8月4日に鈴鹿サーキットで開催されたエネワ
ングランプリで弊社チームが優勝しました。」

相羽繁生君

「本日はピアニストの藤江博子さんをご紹介します。
9月6日のコンサート。沢山の方のお越しをお待
ちしております。」 久保和彦君、夏目英司君

「麻雀の会優勝してしまいました。幹事の分際で勝っ
てはいけないと思い、かなり力を抜いてやったん
ですけど申し訳ないです。」 本多國泰君

「アツイ!!」 亀井敏勝君

本日のニコボックス	10件	34,000円
累 計	44件	276,000円

服部 滋幹事報告

▽当クラブ行事予定

・8月14日(水) 規定休日により休会。

・8月21日(水) 例会終了後 理事会

*8月28日(水) 例会終了後、理事会を予定して
おりましたが、東名古屋分区幹事会ホストのため、
8月21日(水)の例会終了後に変更させていただきますので、
お知らせ申し上げます。よろしくお願い致します。

*本日、ガバナー補佐訪問日(9月18日)に行われ
ますクラブアッセンブリーのご案内を配布させて
いただきました。

鷲塚貞長会長挨拶

“セブンシスターズと芋”

メジャー(Major)とは、主要、一流の意味で、ほぼ日本
語化していますが、これが石油や穀物の世界で、オイルメ
ジャー、グレインメジャーとなると、一流とは程遠く、その組
織と財力を背景に、利権をほしいままにし、暴利をむさぼる
ハイエナ集団の意味に変身します。

米国系のエクソン、モービル、テキサコ、ガルフ、ソーカル、
英国系のBP、英蘭系のシェルの7社による、国際石油資
本はオイルメジャーと呼ばれ、別名をセブンシスターズとい
います。

誰がつけたのか可愛らしい別名とは裏腹に、採掘、精製、
販売に絶対的権力を行使し、やりたい放題です。

日中の境界線で、人の懐に手を突っ込むような採掘をし
ている、春暁などの油田も、中国には採掘技術はなく、実
務の黒幕はオイルメジャーですし、今両国の公船が、血税
で“水鉄砲ごっこ”をしている尖閣諸島も、領土など無視し、
ガルフ社(米国)が勝手に自社の採掘区画に入れています。

我が国には、尖閣諸島に巨大油田(国連アジア極東
経済委員会、1960年代後半公表)、1996年にはメタンダ
イハイドレートが、天然ガス換算100年分日本近海に存在、
(日本海側では海底に露出)、最近では新潟沖、少なくとも
英国北海油田並み、多ければイラク級の巨大油田が確認、
(新聞報道、新潟県出身の国会議員発言)など、世界屈
指の埋蔵資源大国です。

また、国有の大型の探査、試掘船を有しているにもかかわらず、
メタンダイハイドレートを例にとれば、わざわざ試掘
の面倒な太平洋側をその対象にするなど、意図的としか
思えない鈍い反応です。

採算性では難しかったシェールガスを、技術革新で採
算ベースに乗せるなど、米国の手際の良さに比べ何とも
歯がゆいことです。

主要政党の党首選には、米国からの巨額の工作資金が送られてくる(知人の自民党議員談)などからも、財政破たん寸前の国難時にもかかわらず、救世主となる地下資源の採掘のもたまたは、オイルメジャーからも、権益温存のために巨額の工作資金が、施政者達に贈られているのではとの推定は、事実に近いかもしれません。

今我が国は、年間20兆円もの化石燃料を、法外な高値で買わされています。

さて、ここで芋の登場です。

国を支え、しかも安全なエネルギーの供給源として、いまホットな話題になっているのが、近大の鈴木教授発案の、芋乾燥チップを燃料にした火力発電です。

火力発電なのでCO2は出ますが、芋の栽培時に葉が吸収するので収支ゼロです。日本には、コメの価格を高値安定させ、農民票を獲得するため、40%もの減反を行い、この悪政で生じた休耕田、耕作放棄野地などが、40万ヘクタールもあります。これを活用し、また芋はプランターやビニール袋に土を入れ、多層栽培すれば屋上などでも簡単に収穫できます。

私の少年時代の“ごこく”という品種のさつまいもは、ろくな食べ物もなかった時代にもかかわらず、誠に不味な品種でしたが、戦災での焼け跡の灰程度の肥やしで、短期間で大きくなりました。この品種など、芋燃料チップには最適ではないでしょうか。

卓 話

「新エコロジー発電」-日本を救う薯エネルギー-

近畿大学 生物理工学部 鈴木高広教授

芋は優れた純国産のエネルギー作物 芋が日本を救う!?

「農作物から燃料を作る」といえば、まず思い浮かぶのはサトウキビやトウモロコシという方がほとんどではないでしょうか?何故、敢えて「芋」なのでしょう?

芋の燃料化は、非常にコストパフォーマンスが良い!

現在、さまざまな方法で自然エネルギーの開発が行われていますが、どんなにすばらしい技術でもコスト

が高ければ普及しません。

芋は発酵液を蒸留すればガソリン代替のエタノールになりますし、乾燥させれば石炭代替のチップにもなります。

とにかく燃料化が安く簡単にできます。

芋はもっとも効率的な再生可能エネルギー

非化石燃料であることのアドバンテージ、CO2固定

化石燃料と異なり、芋を燃焼して生じる二酸化炭素は、その芋自身が空気中から固定した二酸化炭素です。

そのため、発電によるCO2排出量を大幅に抑えられ、地球環境にも優しいエネルギーなのです。

生産性を高める日照散乱システム

化粧品会社での、光の波長や反射率についての研究の中で培った技術がこれまでの常識を覆しました。

化粧品で肌の表面に光を分散する技術を応用し、地表で太陽光を空間に分散する技術を導入することで、作物の生産性が飛躍的に高まりました。

芋は晴れた日の30%の日照で十分育ちます。

太陽光のエネルギーは過剰に降り注いでいるので、空間的に散乱利用すると大量に芋を栽培することが出来ます。

比較的弱い光でも育つ作物で、日本全国で栽培可能

棚を森林のように多層に重ねて、光を分散させると、当然下の棚には光が届きにくいのです。

そこで比較的弱い光でも育つ作物で、なおかつ日本全国

で栽培可能なものを厳選してゆきました。

森林よりも成長速度が速く、藻類や微生物より手のかからない地上の植物が、CO₂固定や経済性の面で最も有利です。そして、その地上植物の中でも短期間で収穫でき、比較的弱い光でも育つ作物で、なおかつ日本全国で栽培可能なもの…。様々な条件について検証した結果、最も優れていたのが芋だったのです!

化石燃料輸入額20兆円を国内還元

芋がなぜ日本を救えるのか?

芋が優れたエネルギー作物であることが、どうして日本を救うことにつながるのか、そのメカニズム。

日本国内で必要とされるエネルギー量とその問題

年間20兆円もの巨費を要する、日本のエネルギー事情

日本では石油・天然ガス・原子力・自然エネルギーなど、様々なエネルギー資源を用いています。

1年間に必要とされるエネルギーは2,000万テラJ…実に膨大なものです。

このエネルギーを確保する為に、化石燃料だけでも年間20兆円もの巨費を投じています。

しかも、それらの燃料を輸入に頼る以上、その供給は国際事情に左右されます。

エネルギー問題・CO2・農業再生…全てを同時に解決

燃料輸入のために使われてきた年間20兆円を国内に還元!

20兆円もの巨費を投じている理由、それは「他に安い燃料がないから仕方なく海外から購入している」というコスト

面のみの問題です。

ならば、安価な燃料が国内にあったなら?化石燃料より安価な燃料作物…。それこそが芋なのです。実現すれば、

当然この莫大な燃料費は国内、燃料の生産者たる農家に流れることになります。

国内に新たに流れる巨大なマネー20兆円が日本農業を救う!

現在の日本の農業市場は約8兆円、兼業農家を含む潜在的な農家人口は約8百万人。

1人頭年間百万円という計算になりますが、これでは農業離れが深刻になるのも無理はありません。

しかしここに、「燃料産業」という新たな市場が生まれれば、農家の現金収入が大幅に増し、専業で農業に携わろうとする人が増えてくるはずで

す。

国内で必要となる年間2,000万テラJのエネルギーは、全て芋でまかなえる!

芋は食糧問題を引き起こさない理想的なバイオマス燃料

空いている土地を利用するので今ある農作地は引き続き食糧生産に当たれます。

「芋=食糧」というイメージが根強い中、トウモロコシの高騰を招いたバイオエタノールの二の舞にならないかと危惧される方もいらっしゃるでしょう。

しかしその心配は杞憂に過ぎません。従来の農地ではこれまでどおり米や野菜を作りつつ、空き地を使って新たに燃料作物の栽培を行うだけで国内需要量を確保出来るので、食糧作物の供給が減るということはないからです。

例会	月日	今後の予定
第2003回	8.21	セニア・ソムリエ 島 幸子氏 「ワインの奥義」(仮題)
第2004回	8.28	子どもセンター「パオ」監事 弁護士 熊田登与子氏 「取り戻そう子供達の笑顔」

○このウィクリーは再生紙を使用しております。